

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071200770
法人名	医療法人社団 飯盛会
事業所名	グループホーム いいもり (ユニット名 なでしこ)
所在地	福岡市西区飯盛664-1
自己評価作成日	平成23年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成23年5月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・病院併設で、緊急時に対応できる。・入居者、職員共に明るく家庭的な雰囲気を作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームいいもりの運営母体は、地域に根ざして40年の倉光病院である。病院敷地内にグループホームが立地し2Fは宅老所になっている。他にも認知症専門のデイケアやデイサービス、精神科のデイケア、精神障害者の自立にむけて支援するグループホームがあり、医療のみならず福祉にも力を入れ地域福祉の一翼を担っている。利用者の排泄の自立支援では、入居時にオムツを着けていた方が一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄へと改善し夜間のみオムツで安心して就寝してもらう等全職員で取り組んでいる。利用者が作った作品や職員が描いた利用者職員との人物画が家庭的な雰囲気を表している。また、利用者一人ひとりの部屋は馴染みの物や装飾品が持ち込まれ居心地良い居室となっている。ホームと隣接して広いウッドデッキや農園、花が植えられ環境面において落ち着いて過ごせるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の唱和とケアカンファレンスで理念に基づいた目標を毎月立てケアを行っているかを確認している。	朝礼時に唱和することで共有が図られている。また、管理者、職員は毎月の職員会議において理念の実践に向けてより具体的な「月間目標」を立てている。達成度合い等その評価も行っており理念の実践が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホームの行事に近隣の方を招き、交流を深めている。飯盛神社の季節行事や町内会の行事も参加している。	行事の年間スケジュールを組み(3月お花見・7月七夕・12月忘年会等)毎月何らかの行事を催している。その行事に地域の方の参加や地域行事(ごみ拾いや草むしり等)に利用者・職員が参加して、双方向の交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域・自治会主催の講演会に参加し居宅介護支援、グループホームについての説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き、地域の方、ご家族、包括支援センターの方に出席していただき入居者や職員も参加し話し合いの場を持ちカンファレンス等で報告している。	家族代表・民生委員・地域包括職員・ホーム職員が参加し2ヶ月に1回開催している。利用者の状況やホーム運営の報告が行われ、外部評価についても話し合いが行われた。出された意見は全職員で検討し改善している。(例:誰が出勤なのかわからないとの意見に対し出勤者の顔写真を掲示している)	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回運営推進会議を行い話し合いの場を作っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会への参加で得た知識を勉強会で報告し全職員が共有できるよう努めている。入居者の状態により現在施錠状態にあるが外出の希望があれば添えるようにしている。また、できる限り散歩等の機会を作るようにしている。	管理者や職員は鍵をかけることが身体拘束に繋がることは十分理解しているが、利用者のアセスメントを踏まえ施錠せざるをえない状況との結論に至り玄関は施錠している状態である。毎月のミーティングの際いつも検討課題になっている。	今後も話し合いを重ねて、鍵をかけない工夫(センサー等)についての検討と改善への取り組みが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月例勉強会を実地し説明を行い、職員間でも注意、指摘し合える関係作りに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部での研修に参加し、得た知識を他の職員にも報告する場を作り、ご家族に対しても要望があれば説明をしている。	管理者が外部研修に参加し、職員に対しては伝達研修という形で学ぶ機会を設けている。現在制度を利用している方が1名いるが、他の方に対しても状況に応じて対応できるよう体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に記載し、契約時に十分に説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、入居者の変化に目を配り、日常的に話を聞く機会を作っている。公的な窓口があることを説明し、家族との意見交換や情報収集を行っている。	面会時や運営推進会議、行事時等に運営に関する意見や要望を頂く機会を積極的に設け、出された意見や要望に対して運営に反映させている。(例:利用者の残存機能の活用→できることはしていただく・室内のにおい→換気を十分に行う等)	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場リーダーの意見を聞き、現場の意見もリーダーを通じて取り入れている。また年に一度職員満足度調査も実施している。	ユニットのリーダーが職員の意見を吸い上げてリーダーを介して代表者や管理者が聞いている。また、年に1度職員に対して満足度調査も実施し出された意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は常時滞り代表者に毎日の朝礼で報告、相談を行っている。代表者は人事考課表にて評価しよりよい職場環境作りに努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職場の募集、採用にあたっては性別、年齢などを採用対象にしていない。また各職員がその能力を活かし職員が自己表現、アピール出来る場であるよう環境作りに努めている。	職員の募集・採用にあたり性別や年齢等により採用対象から除外していない。職員の個性や能力を生かして得意な分野で活躍したり(作業レクリエーション)有給休暇の取得や勤務の調整等、事業所や職員間で配慮し保障されている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	月1回の会議を持ち教育に取り組んでいる。(人権擁護委員会)	管理者は、朝礼時などのミーティングの際に利用者に対する言葉かけや態度、職員自身の身だしなみ等にも常々注意を払っている。法人内には人権擁護委員会があり、月1回人権に対しての話し合いがされており、そこで作られた「人権標語」の啓発に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員ごとに必要とされる外部研修の参加や毎月の院内研修への参加を呼びかけている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟しており協会、市が主催する研修に参加し職員間の交流を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設長各職員が目配り声かけ、気にかかる方には、個別の時間を作り、話を聞き関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日頃からご家族の意向を聞き、その意向を反映するようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と相談を持ちながら、必要であれば居宅支援の職員を交えて、必要なサービスを利用できるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活での出来ること(炊事・洗濯・掃除)を職員と一緒にしながら、その日、その日の生活を共有している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者についての情報交換を密にし、コミュニケーションを取りながら、ケアにも参加してもらえよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類、友人との手紙のやり取りや馴染みの場所を尋ねる機会を作っている。また、本人の思い出の場所に行く機会を作り、思い出を共有したい。	クリスチヤンの友人が来訪して賛美歌を歌ってくれたり、以前住んでいた自宅へ訪問することや手紙の代筆や電話の取次ぎ等を行っている。今までの生活歴を把握し、馴染みの関係を大切にしながら支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲のいい入居者同士の散歩や食事の席を同じにしたり、家事参加を呼びかけあい、入居者同士がかばいあい支えあっている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には契約事項に添った説明を十分に行い退去後も不安解消の為相談に応じている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを優先し、できる限り希望や意向を取り入れるよう努めている。	入居時に本人や家族から意向等を伺っているが、毎日の接遇の中から利用者の思いや希望を把握し、職員間で共有しケアに活かしている。困難な場合も、勤務年数の長い職員との馴染みの関係や信頼が、利用者の思いをいち早く汲み取れたり、早期対応に努めることができています。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴を大切にしながら、本人や家族からの情報を元にして把握する事に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが出来ることを出来る範囲で自由に発揮できるように支援している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と受け持ち担当者が、介護計画を作成している。面会時等、家族と面談する機会を持ち本人、家族の意向を取り入れるよう努めている。	最初の段階では受け持ち担当者が原案作成し、最終的には介護計画作成担当者が作成している。3ヶ月毎の見直しを基本としているが、毎日の生活の中での気づきや家族からの要望、医療機関との話し合いの上で見直しを図り、利用者により良い生活支援への取り組みとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりのカルテにて日々の変化、表情等を記録し各職員が情報を共有できるようにしている。カンファレンスノートや申し送りノートも活用している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望を聞き外出や個々の趣味などにおける本人らしい時間を過ごしてもらえるよう支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域老人会のイベントや清掃活動に参加することで楽しみを見つけ自分らしく生活できるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院、近隣老人施設との交流を積極的に行い、説明、情報提供を行っている。	現在、両ユニットで2名の利用者が在宅時からのかかりつけ医を利用している。家族の同行ができない場合は職員で対応し、かかりつけ医との連携をとっている。他の利用者は併設病院からの2週間に1度の診療で、緊急時の受診は併設病院でと望んでいる。利用者、家族の意思を重視した支援に努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設病院の看護職員が週に1回訪問し、入居者の健康管理、医療活用にかかっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設病院、近隣老人施設との交流を積極的に行い、説明、情報提供を行っている。近隣老人施設との交流を積極的に行い、説明・情報提供を行っている。地域の病院との情報交換を行い退院後の対応を含めた相談をしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を取り入れ職員が出来る範囲で具体的な対応策を挙げ、家族には十分な説明を行った上で医師を交え同意書の作成、方針を話し合い、チームとしての支援が出来る体制を取り入れている。	入居時には事業所の方針等の説明は行っているが、利用者の状況に応じて、できるだけ早い時期に同意書を交わすようにしている。今までに一人の看取りを行っている。職員間では終末期に向けた家族や医療機関との連携、取り組みについては共通認識ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	院内研修で救急時の対策をDrより説明を受け、出席出来ていない職員はレポートを提出している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている	防災委員会で意見交換を行いマニュアルに添って、年に1回避難訓練を行っている。病院全体を含め年2回行っている。	事業所独自(夜間想定を主に)で年1回と、法人共同で1回、職員、利用者が参加して避難訓練を行っている。職員は有事の際の対応ができるように避難経路、通報、器具の場所等を周知している。地域からは民生委員の参加を得たり、時には家族の参加も得られている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対し各職員が人生の先輩であると言う認識を持ち常に言葉遣い等に配慮している。	人生の先輩としての人格や誇りを大切に接遇に職員全員で取り組んでいる。利用者への言動で気になる場合はその都度職員間で話し合い、一人の人間としての尊厳ある生活が過ごせるように実践に努めている。記録の場所や保管にも十分に配慮されている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に傾聴の姿勢で入居者と向かい合い出来る範囲で自己決定を促し納得いくまで話し合っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者1人1人に合ったペースで過ごせるように配慮している。又、入居者を優先することを常に意識し、ケアの中に業務を上手く融合している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな洋服を選んでもらったり、職員が身だしなみを整えている。月に1度訪問理美容を受けているが、希望者は望む店に行けるようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の残存能力に応じて準備や片付けなど協力して行っている。献立で嫌いなものやアレルギーがある時は別メニューで行っている。	入居時に希望や好み等を聞き取っている。その日の献立によっては、個別に別メニューを取り入れている。配膳や下膳にも利用者が参加し、職員と一緒に食事が楽しく行われており、ゆっくり食べる人や、声かけが必要な人等、それぞれのペースでゆっくりと食事をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後食事摂取量や水分量のチェックを行っている。摂取量が少ない人には十分取っていただけるようこまめに声かけを行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後の洗面時、食後の歯磨き、入れ歯の洗浄をしたり声かけにて促している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をつけ、リズムをつかむようにし声かけタイミングをはかり排泄の失敗やおむつの使用量を減らすよう心がけ、トイレで排泄して頂けるよう努めている。	トイレでの排泄を基本としているが2ユニットで2名が夜間のみ、おむつを使用している。入居前におむつやパットを使用していた利用者に、少しずつトイレへの誘導を増やし、現在ではトイレでの排泄が主になっている。職員が積極的に排泄の自立への取り組みに努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各職員が重要性を理解し水分補給や運動等を意識し行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ本人の希望を取り入れ希望の時間に入浴できるように取り組んでいる。拒否が見られる方には声かけ方法やタイミングを計っている。	毎日の入浴を望まれる人、一週間に2回から3回の希望者それぞれの要望に添った入浴支援を行っている。拒まれる利用者が、訪問された家族の声かけや、職員の声かけ等の工夫により入浴すること等もあり、一人ひとりに合った支援をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	馴染みのある寝具を利用したりホットミルク等飲み物を用意する等して安心してもらえるように努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋や薬の説明書をカルテに閉じ、職員がいつでも確認できるようにしている。申し送りを徹底、職員一人ひとりが薬の目的・重要性を理解し支援を行っている。又、服薬の際は複数の職員で声だし確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や生活歴を活かし手芸や縫い物、月1回の民謡サークルなどその方に合った楽しみを見つけ支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候のいい日は散歩やドライブに誘ったり、希望をとって花見や日帰り旅行を企画したり家族や近隣の方への参加も呼びかけ交流の機会を作っている。	日常的に近くを散歩しており、ホームの飼い犬と一緒に散歩するのを楽しみにしている利用者もいる。時には買い物やレストランでの食事、病院のマイクロバスを借りて家族と一緒に室見川や福岡タワー、植物園、温泉等に出かけることもある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	力に応じて支援しており、所持金に関しては職員がある程度把握し、嗜好品の買い物と一緒に出かけている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族へ電話したり電話を取り次ぐようにしている。了承を得た上で手紙や電話のやり取りをしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の作った作品を飾ったり、季節に合った飾り付けをしている。	広い玄関には季節の花が置かれ鉢には金魚が泳いでいる。明るいいビングには丸テーブルやソファが置かれ、会話を楽しんだりテレビを観たりそれぞれが自由に過ごしている。利用者が作成した詩や刺し子の額、職員の手書きの楽しい人物画(入居者と職員)等が飾られている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数名が座れるソファの設置、円形の食卓テーブル2個、独り掛けの椅子も設置している。また、テラスにもガーデンテーブルを設置している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のダンスや仏壇等持ち込んだりご家族の写真を飾ったりしている。	ベッドと整理ダンスはホームが準備している。利用者が入居前から大切にしている小道具や家族の写真があり、なかには所狭しと馴染みのもの等も持ち込まれ、その人の生活の継続性を大切にしたい居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、トイレには手すり、浴槽には手すりや滑り止めを設置し台所にはIHを採用、流し台の高さは入居者に合ったサイズにしている。		